

石狩川下流当別地区自然再生地環境保全活動について (エゾノウワミズザクラの再生 to-pet 自然の会)

事業目的

石狩川下流当別地区自然再生地は、石狩川と当別川が合流する石狩川右岸の高水敷に造られている。かつて広大な湿原であった石狩川下流域は、石狩川の改修工事によって豊かな農地へと生まれ変わった。一方、湿原の消失によって湿原環境に生育していた動植物は種の保全が困難となっている。この地域にはハルニレやヤチダモを主体とする湿性林が広がり、林内にはエゾノウワミズザクラなどが存在していたと考えられる。

現在、石狩地域で確認できるエゾノウワミズザクラは暴風雪林などに点として残されているが、「森林総研」北海道支所長（2017年）の河原孝行氏は、外交配が必要な同種は絶滅が危惧されると指摘しており、石狩地域におけるエゾノウワミズザクラの保全は緊急の課題であると報告している。

また、自然再生地の基盤は河川工事によって長期にわたり攪乱されて来たため、ほぼ全域にヨシとヤナギが繁茂している。しかし、旧川跡の河畔林に残されたオニグルミから、動物が運んだ種子による幼木が点在しており、多様な樹種を育てる母樹の必要性が伺われる。そのため、再生地周辺の種子によるハルニレ、ヤチダモなど湿性林の苗を移植・管理し、母樹を育て多様な樹林再生の端緒に就きたい。また、自然再生地の利用空間ゾーンにシンボルツリー（希少性）となるエゾノウワミズザクラを育て、この取り組みによって地域住民が再生地への興味や愛着を持つ足がかりを築いていきたい。

事業内容

2017年6月に石狩、空知森林管理署にエゾノウワミズザクラの種子採取申請を行い苗を育成してきた。種子採取の許可条件は、公の目的に使用するとされているため、石狩川下流当別地区自然再生地に苗を移植し種の保全をはかり、再生地の認知度と利活用を高める。同時に札幌河川事務所の苗圃から母樹となるミズナラ、ヤチダモなどの苗を提供してもらい移植・管理する計画とした。

- ・苗の移植は2019年5月に「トペ自然の会」、当別高校、一般参加者によりエゾノウワミズザクラ22本ハルニレ等4本の苗を移植してきた。
- ・苗の成長を促すため、ヨシなどによる被圧対策として5月～8月の期間除草を行う。さらに、小型カゴの設置によりネズミ・鹿の食害防止対策を実施した。
- ・管理期間は、エゾノウワミズザクラを生育・開花させた経験から概ね4年を目途とする。
- ・再生地の多様な樹林再生を持続的な活動とするために、「トペ自然の会」のイベントを充実させて参加者を募り母樹の拡大を図る計画である。

2020年夏に現地の樹木を確認をしたところ、鹿による枝の食害が散見されたため、樹木の成長に見合った食害防止対策が必要となった。そのため、2021年3月に前田一步園財団自然環境保全活動助成事業を申請し、ネズミ・鹿の食害対策の資材購入等について助成金を頂いた。

エゾノウワミズザクラの成長からネズミ・鹿の食害を防止するためには、大型カゴの設置とバープによる対策が必要と考え製作を行い設置した結果、一カ所で部分的な食害が見られたのみで対策の十分な効果が発揮できた。

但し、例年にない降雪からカゴやバープの変形が生じたため、その対策及び設置方法について改良を要することが求められている。

今後も厳しさを増すと思われる気象条件や樹木の成長に対応した適切な管理と効果的な食害対策を講じて、2023年5月にはエゾノウワミズザクラの開花を迎え、8月には種子の採取をしたいと考えている。

(2021年度前田一步園自然環境保全活動助成事業 to-pet 自然の会)



昨年、枝がシカに食べられ新たに葉が出てきたエゾノウワミズザクラ



シカ食害対策のカゴ、バープの設置